

平成29年9月6日

資料提供

御坊保健所 保健福祉課

担当：平井

TEL：0738-22-3481

9/9は救急の日、9/3～9/9は救急医療週間！

子どもの事故予防について改めて考えてみませんか

子どもを事故から守ろう！

—乳幼児健診の場を活用した子どもの事故調査のまとめ—

子どもの不慮の事故による死亡は0歳では第5位であるが、1歳～9歳までは第2位と死亡数の多くを占めています。

御坊保健所では、平成2年度から管内市町の乳幼児健診時に保護者を対象に、安全チェックリストにより子どもの事故経験と事故予防対策の調査を実施しています。今回、平成28年度における状況をとりまとめました。事故件数は調査当初と比べ減少しておりますが、平成28年度においても69件の事故が発生しており、今後とも子どもの事故予防への取り組みが必要です。

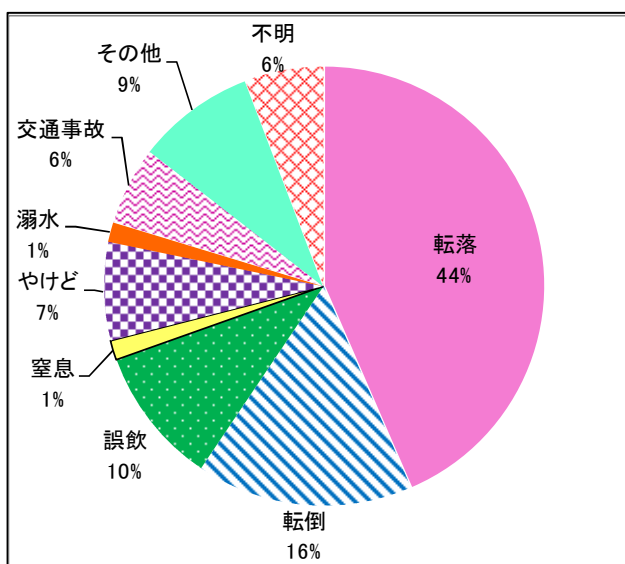
1 事故の中で特に注意してほしいこと！

【転倒・転落】

●管内の現状

安全チェックリストから把握できた事故のうち、転倒・転落は41件で、6割を占めていました（図1）。4か月児ではベッド、1歳6か月児ではソファーや階段、3歳児では公園の遊具などからの転落が多くなっていました。

図1 平成28年度事故種類別割合



《対策》

幼いほど体の重心が高くバランスを失い転倒しやすく、ハイハイやつかまり立ちを始めるようになると行動範囲も広がるため特に注意が必要です。

- ・階段には柵をつける、上り下りする時は大人が手の届く範囲で下の位置にいるようにする。
- ・網戸や窓は少しの間であってもきっちり閉める。
- ・テーブルや家具のコーナーにはクッションテープ等を付け、打撲事故に注意する。

【誤飲】

●管内の現状

誤飲は7件で、昨年度より増加しています。4か月児では0件となっておりますが、1歳6か月児の推移をみると、平成26年度は2件、平成27年度は0件、平成28年度は7件でした。3歳児の推移は、平成26年度は2件、平成27年度は1件、平成28年度は0件でした（図2・図

3)。また、たばこの誤飲による病院受診の実態を把握するため、管内基幹病院に調査をした結果、3件となっていました。（表1）。

図2 1歳6か月児健診誤飲の原因の推移

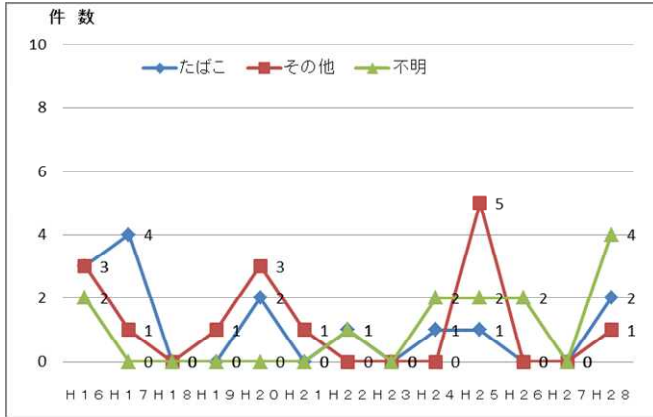


図3 3歳児健診誤飲の原因の推移

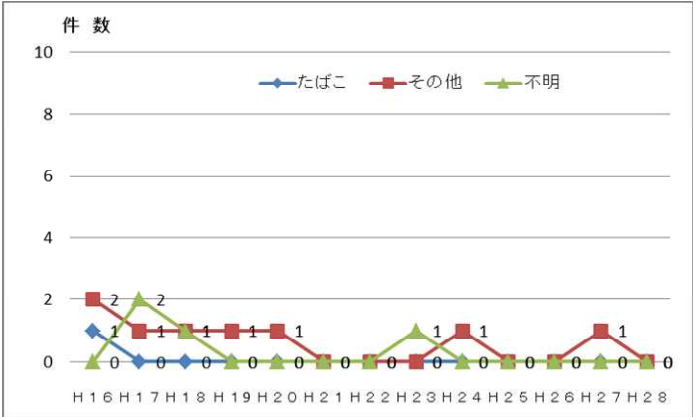


表1 たばこの誤飲件数による受診件数（単位：件）

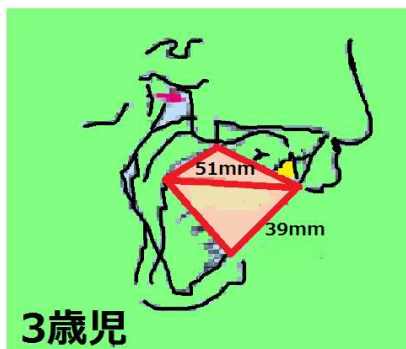
	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
管内基幹病院受診件数	11	15	6	9	6	9	9	6	8	3
チェックリスト把握件数	0	2	0	1	0	1	1	0	0	2

《対策》

子どもは食べ物以外でも発達過程において、何でも口に入れる時期があります。そのため、事故は5～6か月を過ぎると増加します。また、全国的にも、たばこによる誤飲事故が最も多く発生しています。

- ・小さいおもちゃや洗剤、薬は子どもの手の届かない所に置く。
- ・たばこの灰皿代わりに飲料の空き缶を使うことは避けるなど、たばこや灰皿は乳幼児のいる環境からなくす。
- ・食べ物は小さく切り、食べやすい大きさにし、よく噛んで食べるよう声掛けをする。
- ・遊びながら、歩きながら、寝転んだまま食品を食べさせないようにする。

図4 乳幼児の口の大きさ



乳幼児の口の大きさは32ミリ（3歳児が口を開けたときの最大口径は約39ミリ、のどの奥までは約51ミリ）といわれており、この大きさの範囲のものは口に入り誤飲や窒息の原因となります（図4）。

◇ 事故はちょっと目を離した隙に起こっています

事故が起こった時の状況は、母が家事をしている間や、友人との会話中、スマートフォンを見ている間など、「ちょっとだけなら」という少しの隙に事故は起こりますので、子どもから目を離さないように注意が必要です。

2 チャイルドシートの使用状況

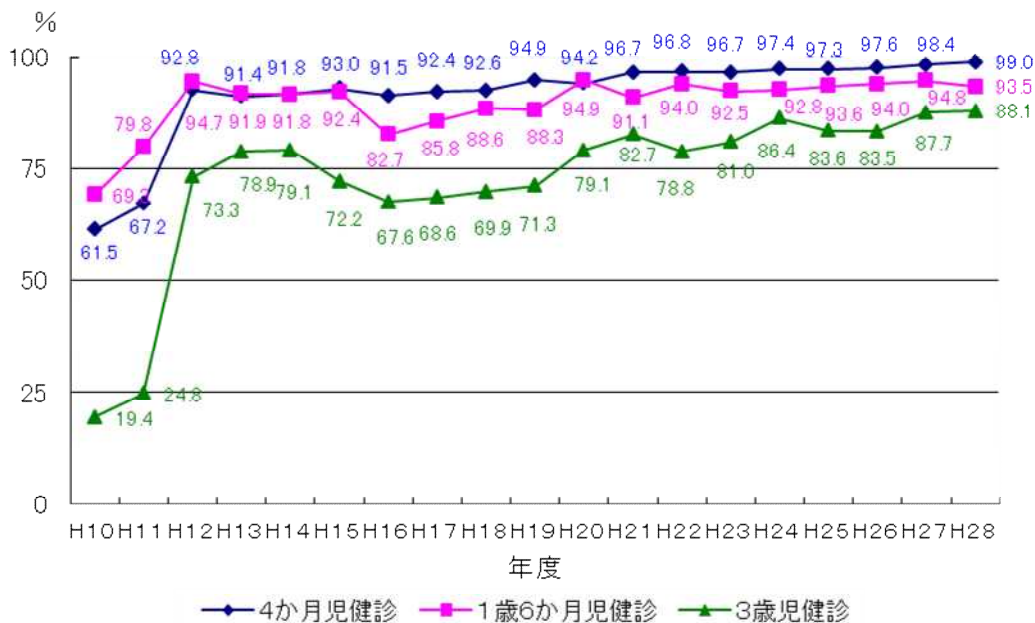
●管内の現状

全国のチャイルドシート使用率（平成28年の警視庁・JAF調査）は1歳未満85.7%、1～4歳66.8%、5歳39.1%でした。それに対して、安全チェックリストの意識調査で「チャイルドシートを使用していますか」に「はい」と答えた保護者は、4か月児99.0%、1歳6か月児93.5%、3歳児88.1%と全国と比べ高い使用率でした（図5）。しかし、年齢が上がるにつれチャイルドシートの使用率が低くなっています。交通事故から子どもを守るためにも、チャイルドシート使用率を100%にすることが必要です。

《対策》

チャイルドシートを使用すると、事故のときの死亡率や重症率が低くなることが実証されており、「子どもを守る命綱！」とも言えます。短距離でも重大な事故が起こる可能性があります。子どもが嫌がる場合でも必ず使用しましょう。また、発育に応じたチャイルドシートを選び正しく装着しましょう。

図5 チャイルドシート使用率の推移(単位:%健診対象児別数の割合) (御坊保健所)



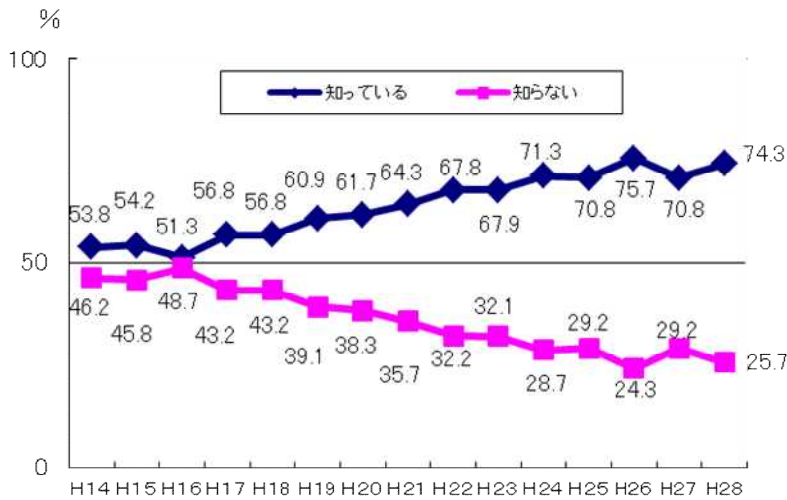
3 いざという時のために応急手当を学んでおこう！

●管内の現状

心肺蘇生法を知っている保護者の割合は7割以上となり、増加傾向にあります。しかし、約3割の保護者は「知らない」と答えています（図6）。

地域の保育所や各市町等では実施している心肺蘇生法の講習会を活用し、いざという時に備えて冷静に対応できるようにしておくことが大切です。

図6 心肺蘇生法を知っている保護者の割合の推移（単位：％）



子どもの事故は大人がほんの少し目を離した隙や子どもの思いがけない行動で起こってしまいます。また、子どもの成長発達とともに起こりやすい事故も変化していきます。大人の気配りだけでは不十分で、周りの環境整備と子どもへの安全教育が大切になります。

